



ここは、マニラの南方70キロ、車で1時間半の位置にある場所である。
湖の名前はタール湖、面積は琵琶湖の3分の1なのに水深はその2倍の170メートルと半端ではない。
火山が陥没して形成されたカルデラ湖で、周囲は標高700メートルの外輪山に囲まれる。
この外輪山にタガイタイというリゾート地があり、マニラ市民の憩いの場所となる。
ここには、故マルコス大統領の別荘もあり、イメルダ婦人が今でも時折訪れる。
さて、湖の真ん中に浮かぶのが湖面から300メートルのタール山。
世界で一番小さい活火山として名を馳せる。
最新の1965年噴火時は2千人の死者をだしたという恐ろしい火山なのだ。
でも、今は大人しくしており、火山頂上まで登ることができる。
その火山頂上に、さらに、円周2キロの湖を有する2重カルデラ構造となる。
その湖底にある多数の噴気孔からの蒸気により、常に沸騰状態の熱湯湖である。

霧の摩周湖を彷彿させる写真となったが、単にこの日、霞んでいただけなのである。
それでも、この湖には魔物が住みついていたという言い伝えが残っている。
そのため、土地の人は、引きこまれるのを恐れ、近づかなかった、と。
そう言われれば、そんな雰囲気も漂わせる写真ではないか。